

たかさう 連携だより

2026年発行
第231号

4月号

新年度のご挨拶 2
院長 小川 哲史

専門・認定看護師紹介 3
感染管理認定看護師 小澤 薫子
感染管理認定看護師 富澤 智樹

地域連携症例検討会
消化器内科・外科 4~5
内科系診療部長 長沼 篤
外科系診療部長 坂元 一郎

整形外科 6
整形外科部長 一ノ瀬 剛

放射線科だより 7
検査科だより 8
医師紹介コーナー 9
地域医療連携登録医のご紹介 10~11
院長閑話 12

江田鏡神社
の河津桜

撮影：患者サポートセンター 後藤 雅美

●地域医療支援病院 ●がん診療連携拠点病院

独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター



〒370-0829 群馬県高崎市高松町36
代表 (TEL) 027-322-5901
URL <https://takasaki.hosp.go.jp/>
地域医療支援・連携センター(医療機関専用ダイヤル)
(TEL) 027-322-5835
(FAX) 027-322-5925

【理念】

患者さんから信頼される病院を目指します

【基本方針】

- 常に患者さん本位の医療を心がけます
- 研鑽に励み、安全で良質な医療を提供します
- 医療連携を積極的に推進し、地域医療に貢献します
- 良き医療従事者の育成に努めます
- 臨床研究を推進します
- 健全な病院経営を行います

【看護の理念】

人間の尊厳を大切にし、専門的な知識、技術を持ち、心のこもった看護を提供します

【患者さんの権利を守ります】

- 誰でも良質で安全な医療を受ける権利があります
- 患者さんの人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります
- 病気、治療等について、十分な説明を受ける権利があります
- 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- 病気等について十分な説明を受けたうえで、自分の意志で検査や治療方法を選択したり、他の医療機関を選択する権利があります
- 医療情報に関する個人のプライバシーが守られる権利があります

新年度のご挨拶

— 新たな地域医療構想を踏まえて —



独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター

院長 小川 哲史

令和7年度も地域の先生方や住民の方々からたくさんのご支援ご指導をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで昨年4月から本年2月までの11か月の紹介患者数は17,841名、新入院患者数は14,315名、手術件数は5,530件で、それぞれ過去最多件数で、救急車搬送件数は5,727件で群馬県内で最も多い件数でした。

さて、現在、2040年頃の医療提供体制を見据え、「新たな地域医療構想」の検討が進められています。これまでの地域医療構想は、団塊の世代が後期高齢者となり、医療需要が最大化すると予測される2025年に対応するための体制構築を目指して策定されましたが、「新たな地域医療構想」では、高齢化に伴う慢性疾患の増加や医療・介護の連携が重要なテーマとされています。急性期医療にとどまらず、回復期医療や在宅ケア、さらには介護までを包括的に支える地域医療体制の構築と、かかりつけ医機能制度や在宅医療、医療介護連携などの取り組みの推進が求められています。また生産年齢人口が減少する中でも医療提供体制を維持するために、医療DXの推進による業務効率化も必要です。

当院は、高崎・安中地域はもちろん、西毛地域から県内全域の地域医療における役割と使命を、時代の変化に合わせて機能をさらに充実させる必要があります。また、今年度は、より質の高い病院を目指して当院4回目となる日本医療機能評価機構による認定病院の受診もあります。

今年度も多忙な一年となりそうですが、高崎市・安中市などの行政や医師会等の地域医療機関と協力しながら、市民の方々の命と健康を守るという当院の急性期中核病院としての使命を果たすべく、職員一同、努力していきます。ご支援、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

専門・認定 看護師紹介



感染管理
認定看護師

小澤 薫子

新たに感染管理認定看護師となりました、小澤薫子です。感染管理認定看護師は、院内の感染対策を専門的に支え、病院に関わるすべての方を感染から守る役割を担っています。私は感染対策活動に加え、抗菌薬適正使用支援活動にも積極的に取り組んでいます。抗菌薬を正しく使うことは、耐性菌の発生を防ぎ、将来の治療の選択肢を守ることに繋がります。医師・薬剤師・臨床検査技師とともにカンファレンスや患者ラウンドを行い、患者さんの状態や治療経過を共有しながら、より良い治療につなげています。また、実際に細菌検査室へ足を運び、「グラム染色」という検査にも力を入れています。この検査は、感染症の原因となる菌を速やかに特定でき、早期の適切な治療に役立ちます。医師や研修医にもグラム染色の重要性を伝えるため、実際の症例をもとにした問題を作成するなど、興味を持ってもらえるよう工夫しています。今回ご紹介した内容は活動の一部ですが、今後も多職種と協働し、院内全体の感染管理の質向上に取り組んでまいります。

感染管理
認定看護師

富澤 智樹

手術室と感染管理室の専任で活動をしている、富澤智樹です。主な活動内容は、外科病棟と手術室にてSSI（手術部位感染）の予防と異常の早期発見に努めています。特に、外科病棟では医師や看護師と共に回診を行い、創部の状態を直接評価しています。SSIは、医療関連感染の約20%を占める術後合併症のひとつです。SSIが発生することにより、再手術・抗菌薬の延長・追加処置等が必要となります。そして、入院期間が延長し患者さんのQOLの低下を招きます。当センターでは年間に約6,000件の手術を実施しています。近年では高齢者や合併症を持った患者さんの手術が増加し、手術手技の高度化や複雑化もあり、手術を取り巻く環境は危険が伴います。その為、チームの技術力や術後管理、感染予防策等を標準化し、スタッフ個人や組織の慣習を整えSSIの低減に努めることで、術後の患者さんが安心して入院生活を送れるように取り組んでまいります。

消化器内科・外科領域疾患の
診断と治療の連携

消化器内科

【消化器内科の紹介】

2009年に当院の消化器内科を立ち上げてから、当科で各種の治療を行った患者数の年次推移を提示しました。特に大腸の治療内視鏡を受けた患者数は、2024年は約600例と右肩上がりに増えています。当科は常勤医10名・専攻医3名の計13名体制で診療にあたっています。肝胆膵チームと消化管チームに分かれ、高度な専門医療を提供しています。日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓学会などの認定（指導）施設を取得しており、充実した指導体制を整えています。内視鏡室3室・TV室2室を完備し、OLYMPUS EVIS X1をはじめとした最新の内視鏡関連機器を導入しています。上部・下部消化管内視鏡検査から、ESD・ERCP・EUS-FNA・ラジオ波治療まで幅広い検査・治療に対応しています。また最新のFibroScan®を導入し、MASLDやMASHの非侵襲的診断にも注力しています（図1）。炎症性腸疾患の生物学的製剤治療や消化器がんの薬物療法など、急性期病院として地域の基幹病院にふさわしい医療を提供しています。地域の先生方からの積極的な患者さんのご紹介をお待ちしています。

図1

消化器内科 NEWS 最新のFibroScan®を導入！
FibroScan®では、肝線維化と脂肪沈着を非侵襲的に検査できます。また数字としてリスク評価可能であり、脂肪肝の人は年1回のチェックが望めます。脂肪肝に限らず、肝臓病、生活習慣病の人にもおススメの検査です。2025年は計50例施行しています。

FibroScan	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実施件数	1	1	6	3	5	6	5	8	9	6

脂肪肝，肝臓病，メタボの患者さんがいましたら是非ご紹介下さい！
当院ではMASHの治療を積極的に行っています。



【消化器内科からの症例提示】

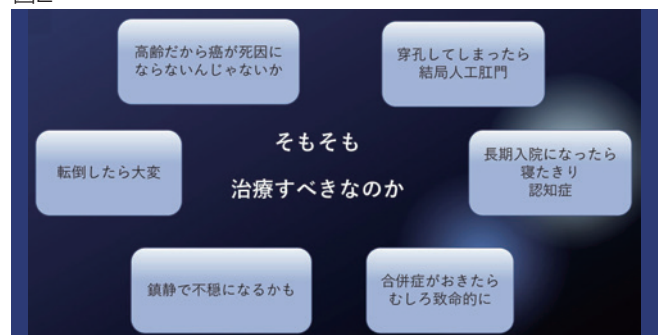
増田智之部長より、症例提示をさせていただきます。本症例は、90代男性の直腸Rbに発見された

108×66mmに及ぶ広範な早期大腸癌（LST-MG）です。CTではcT2N0M0と診断され当初は外科手術（人工肛門造設）が想定されましたが、内視鏡的に一括切除可能と判断しESD（Pocket Creation Method）を施行しました。病理結果はAdenocarcinoma（tub1>>tub2）、深達度pTis（m）、脈管侵襲Ly0/V0、断端pHM0/pVM0と根治切除が確認されました。病理診断の詳細については、病理診断科の宮永朋実部長に分かりやすく解説していただきました。外科医の立場からは、大曾根勝也医師よりコメントいただきました。



今回の症例は術後合併症なく3日で退院し、人工肛門を回避して日常生活を継続されています。超高齢者の大腸癌については「治療すべきか」の判断が重要で（図2）、チャールソン併存疾患指数（CCI）などを参考にリスク評価を行うことが推奨されています。ご高齢の患者さんであっても治療でお悩みの際には、ぜひ一度ご紹介ください。

図2





座長
多胡 賢一 先生
(群馬八幡消化器内科クリニック)

内科系診療部長
長沼 篤
(左)



外科系診療部長
坂元 一郎
(右)



外科

[地域のニーズに応える、質の高い消化器外科診療を目指して]

当科の使命は、第一に地域の患者さんを応需することです。そのために、地域の医療機関や保健・福祉機関と役割を分担し、また時代の変化に柔軟に対応していくことを心がけています。

当科の手術件数は増加しており、大腸癌や緊急手術は群馬県で最多です。2023年12月にロボット支援手術を導入し、2年間で134件の実績を積みました。現在では、胃がんの90%、大腸がんの80%をロボットや腹腔鏡を用いた低侵襲手術で施行しています。

ロボット支援手術 (da Vinci)



全国的に悪性疾患や救急疾患の集約化の流れもあり、地域のみなさまのご期待に沿えるよう励んでまいります。

[症例検討：長期罹患UC合併大腸癌に対する機能温存手術]

今回は、20年以上の治療歴のある潰瘍性大腸炎に合併した下行結腸癌の患者さんをご検討いただきました。大腸全摘を要しますが、術式は患者さんに合わせ施設ごとにより選択されます。本例はADLが良好で、再発予防に加え「永久人工肛門の回避」を重視されました。そこで、最新の経肛門アプローチ併用腹腔鏡下大腸全摘 (TaTME)、回腸囊肛門吻合、一時的

回腸人工肛門造設術を施行しました。術後経過は良好で、既に人工肛門閉鎖術も終え、自宅療養されています。TaTMEの導入により、安全性を担保しつつ、従来以上に機能温存と根治性の両立が可能となりました。

経肛門アプローチのメリット

Circumferential Resection Margin (CRM)の確保	肛門挙筋と筋腹	神経血管束(NVB)	機能温存
	根治性	肛門側2cm確保	肛門・排尿機能
Distal Margin (DM)のコントロール	両側チーム	会陰チーム	安全性
			双方からの確認手術時間の短縮

Shiraishi T, et al. Colorectal Dis. 2021 一部改変

[IBD診療体制の強化]

炎症性腸疾患 (IBD) は、内科治療の進歩により予後が改善した一方、罹病期間の長期化に伴う発がんリスクが課題となっています。今年度、県内でも数少ないIBD専門医かつ大腸肛門病専門医である大曾根医師が赴任し、IBDの内科的管理から外科手術まで完結できる体制が整いました。お力になれる患者さんがおられれば、お気軽にお声掛けください。

消化器外科の手術後は、消化吸収機能の変化が避けられません。かかりつけ医の先生方と力を合わせ、患者さんが安心して暮らせるようサポートして参ります。栄養サポート外来やセカンドオピニオン外来も開設していますので、どうぞお気軽にご活用下さい。



整形外科領域疾患の診断と
治療の連携

座長

神山 真孝 先生

(ひかり整形外科 高崎ハナミズキ院)



整形外科部長

一ノ瀬 剛

今回の症例検討会は、整形外科が担当させていただきました。

市川先生からは、高齢者における脆弱性の四肢骨折の治療について、当院での治療状況や、地域からご紹介いただいた患者がどのような経過で治療されているかについての詳細に報告していただきました。高齢化が進む本邦では、骨粗鬆症治療が十分に行われていない、もしくは行われていても高度の骨粗鬆症に陥っている高齢者が一定数存在し、屋内での転倒や軽微な外力で骨折してしまいます。現在の診断基準では、軽微な外力での骨折を来した場合には骨密度の結果に関わらず骨粗鬆症と診断することが可能であり、当院の入院から骨粗鬆症治療が開始となる患者も多く存在するため、こうした患者への早期アプローチの大切さを実感させる発表でした。



茂木先生からは一転して、骨粗鬆症治療における稀な合併症である、大腿骨の非定型骨折について発表していただきました。この骨折は、骨粗鬆症治療薬の一部であるビスフォスフォネート (BP) 製剤を長期に服用している患者のごく一部に生じる骨折です。BP 製剤との関連が強く疑われており、これらの製剤による骨代謝が曲度に低下することなどが原因と考えられていますが、現在も詳細な病態は不明となっ

ています。臨床的には BP 剤内服中の患者が慢性的な大腿骨や股関節痛を訴えた場合、すでに切迫骨折となっていることもあり、こうした症例では予防的に髄内釘による内固定を行う必要があります。骨粗鬆症治療のための薬剤が骨折の原因となるという、一見矛盾した状況ではありますが、BP 剤を数年単位で休薬することで予防しうることも茂木先生御発表いただきました。



私は自分の専門である、肩の分野について、高齢者に多く治療に難渋する上腕骨近位端粉碎骨折の治療について、近年脚光を浴びつつあるリバーズ型人工肩関節 (RSA) を紹介していただきました。RSA の利点は従来の骨接合術や人工骨頭手術に対してリハビリの内容が単純化でき、除痛については安定した成績を期待することができる点にあります。また、可動域についても他の術式と比較して安定した成績が海外でも報告されつつあり、今後、上腕骨近位端粉碎骨折の治療の選択肢として大いに活躍しうるものとなると考えます。

今回は以上の 3 疾患について、手術を主体とした報告をさせていただきました。当院は地域の中核病院として可能な限り周囲の医療機関の期待に応えられる医療機関でありたいと考えています。

医療機器共同利用 のご案内

当センターで保有しています医療機器を、地域の医療機関の先生方にもご利用いただけます。患者さんの診療および治療にお役立てください。

核医学治療 第2報

ルタテラ静注：神経内分泌腫瘍に対する治療について

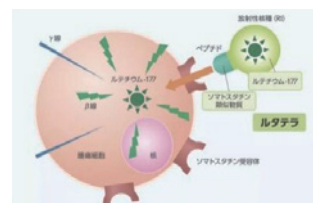
● 適応

ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍 (NET)

本剤の治療にあたっては、ソマトスタチン受容体 (SSTR) の存在を確認しておくことが必要です。

● 治療の概要

ルタテラ静注は、腫瘍表面のソマトスタチン受容体に結合し、腫瘍内部からβ線を照射して治療する放射性医薬品です。点滴投与後、薬剤が腫瘍に集積しDNA障害を起こして腫瘍増殖を抑えます。投与スケジュールは1回7.4GBqを8週間間隔で最大4回まで点滴静注します。



● 主な注意点

治療後は放射線管理のため短期間の入院 (1~2泊) が必要となります。投与中は、骨髄抑制 (血球減少)、腎機能障害などが生じることがあり、定期的な血液検査、腎機能検査が必要です。治療開始前後は十分な水分摂取・排尿が推奨されます。治療の適応にはソマトスタチン受容体の発現確認 (シンチグラフィー) が必須となります。当院でシンチグラフィー検査が可能です。

● ご相談・ご紹介

消化器科・消化器病センターにご紹介をお願いいたします。患者さんご本人からのお申し込みは受けておりません。

プルビクト静注：PSMA陽性 前立腺がんに対する治療について

● 適応

PSMA陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺がん (mCRPC)

1種類のARSIを使用し化学療法を行っていない方とARSIと化学療法実施済みの患者が対象となります。



● 治療の概要

プルビクト静注は、前立腺特異的膜抗原 (PSMA) に結合するリガンドに¹⁷⁷Luを付けた放射性医薬品です。腫瘍細胞に取り込まれるとβ線によりDNA損傷を起こし治療効果を発揮します。投与スケジュールは、1回7.4GBqを6週間間隔で最大6回静脈内投与します。治療前にPSMA陽性であることを診断用放射性医薬品で確認する必要があります。(当院での診療後に、PET検査を他施設でしていただけます。)

● 主な注意点

治療後は放射線管理のため短期間の入院 (1~2泊) が必要となります。骨髄抑制・腎機能障害が出現することがあり、投与中・前後の定期的な検査が必須です。治療開始前後は十分な水分摂取・排尿が推奨されます。

● ご相談・ご紹介

泌尿器科にご紹介をお願いいたします。患者さんご本人からのお申し込みは受けておりません。





知っておきたい身近なウイルス感染症



アデノウイルスとヒトメタニューモウイルスは、**かぜのような症状を起こす身近なウイルス**です。特に**子どもや高齢の方**は症状が強くなることもあるため、正しく知っておくことが大切です。

アデノウイルス

かぜのような症状のほか、**目やおなか**にも症状が出ることがあります。



主な症状

- 発熱
- のどの痛み
- 目の充血、目やに
- 下痢、腹痛

注意点

タオルや手を介してうつりやすいため、**手洗いと共用を避ける**ことが大切です。

ヒトメタニューモウイルス

かぜや気管支炎、肺炎の原因になるウイルスです。**小さな子どもや高齢の方**は重くなることがあります。



主な症状

- 発熱
- 咳、鼻水
- ゼーゼーする呼吸
- 元気がない

注意点

咳が強い、息苦しそうなときは**早めに受診**しましょう。



●治療について

どちらも**特効薬はなく**、症状をやわらげる治療が中心です。

●受診の目安

次のような場合は医療機関を受診してください。

- 高熱が続く
- 呼吸が苦しそう
- 水分がとれない
- ぐったりしている

●予防のポイント

- こまめな手洗い
- 咳エチケット
- 体調不良時は外出を控える

医師紹介

当センターの医師を紹介します。



心臓血管内科

おおこま なおや

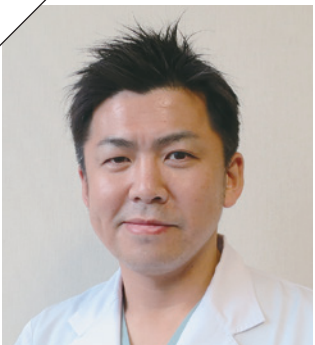
大駒 直也

心臓血管内科の大駒直也と申します。

伊勢崎市出身で、高崎高校、群馬大学を卒業後初期臨床研修から4年目まで高崎総合医療センターで勤務し、一度心臓血管センターに研修へ行った後、6年目以降より高崎総合医療センターで勤務しております。

不整脈、虚血性心疾患、心筋症等多彩な疾患を扱っておりますが、当科の疾患はいずれも命に直結するものばかりであり、迅速かつ丁寧な診療を心がけております。高齢化社会の中で心疾患を抱える患者さんも年々増加していることから、患者様のニーズに沿った医療を届けていければと考えております。

慣れ親しんだ高崎地域に少しでも貢献できるよう、日々精進していきますので今後ともよろしくお願いたします。



外科

みやまえ ようへい

宮前 洋平

外科の宮前洋平です。群馬県沼田市出身で、沼田高校を経て自治医科大学を卒業しました。専門は大腸外科で、現在は主に大腸がんに対する腹腔鏡手術やロボット支援手術を中心に行っています。2020年4月より高崎総合医療センターに勤務しておりますが、実は当院での勤務は今回で3回目となります。長く地域医療に関わらせていただけていることを大変ありがたく感じています。

患者さんに安心して手術を受けていただける医療を心がけ、日々診療に取り組んでいます。

休日はフルマラソンに年3回ほど出場しており、現在はサブ4を目標に練習しています。登山やサウナも好きで、体力維持と気分転換を兼ねて楽しんでいます。医療もマラソンと同じで、地道に一步步積み重ねることが大切だと感じています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

地域医療連携登録医のご紹介

地域医療連携登録医の皆さまとパートナーシップを組んで診療に取り組んでいます。

リーフこどもアレルギークリニック

院長あいさつ

地域の皆様の頼れる『健康創造パートナー』として、皆様のお役に立ちたいと考えております。

皆様の健康に少しでも貢献できますことを喜びといたします。どうぞ、末永くよろしく申し上げます。



リーフこども
アレルギークリニック
院長

佐藤 哲

診療科・病院案内

小児科・アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~11:30)	●	●	★	●	●	▲	△
午後(15:30~18:00)	●	●	△	●	●	▲	△

▲9:00~12:30 14:00~15:30

(4月から9月の土曜は午前診療のみとなります。10月から3月は、土曜日の午後も診療いたします)

★水曜日は、12時からの特殊外来が終わり次第第3診療が終了となります。

群馬県高崎市金古町53-1 TEL: 027-388-8111

小児科一般とアレルギー疾患、特に気管支喘息、食物アレルギー（食物負荷試験など）、アトピー性皮膚炎、花粉症等の治療を専門に行っています。

お気軽にご相談ください。

なぐも眼科

院長あいさつ

目は情報の80%を得る大切な器官です。当院では地域の皆様の目の健康を守るために、分かりやすい、科学的根拠に基づいた医療を行っています。

目でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。



なぐも眼科
院長

南雲 日立

診療科・病院案内

眼科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~12:00)	●	※	●	◆	●	●	△
午後(14:30~18:00)	●	※	●	●	●	△	△

※火曜日は外来休診・手術日

★第4木曜日の午前は手術のため外来休診

群馬県安中市安中2-13-1 TEL: 027-387-0221

当院では一般眼科診療ほか、日帰り手術、白内障・緑内障検診・花粉症・ドライアイ治療、糖尿病網膜症のレーザー治療などの診療、また成人病（糖尿病・高血圧・動脈硬化）の眼底検査も行っております。

コンタクトレンズ処方とメガネ処方も行っておりますので、コンタクトレンズをご希望の方、視力が落ちてきた方は検査・診察いたします。ぜひ一度ご来院ください。

院長あいさつ

藤岡市に島田記念病院として創設された当院は、くすの木病院と改名して20年が経過し群馬県西部から埼玉県北部の医療を担って創立以来38年が経過しました。職員一同、『病んでいる患者様のために何をすべきか』を第一に考え、患者様本位の医療を推進しております。最先端の医療機器を備え、急性期から慢性期まで幅広く患者様を受け入れております。今後とも安全で良質な医療とケアを提供し、地域医療への貢献に尽力してまいります。



医療法人社団
三思医光会
くすの木病院
院長
高木 均

診療科・病院案内

内科・消化器/肝臓内科・腎臓内科・循環器科・内分泌糖尿病内科・
外科・乳腺甲状腺外科・整形外科・放射線診断科・歯科・口腔外科・
リハビリテーション科・人間ドック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~11:30)	●	●	●	●	●	◆	△
午後(14:00~16:30)	●	●	●	●	●	△	△

◆第1・3・5土曜のみ／受付時間は診療科によって異なります。
群馬県藤岡市藤岡607-22 TEL:0274-24-3111

当院は、地域密着型のケアミックス型病院の機能を有し、患者様の病態やライフステージに合わせた医療を提供しております。

特に、整形外科においては専門医がこの春より5人に増員となり外傷、骨折の手術を含めた入院治療、リハビリテーション、腎臓内科では外来透析に加え入院透析を積極的に実施し、消化器・肝臓内科においては、上部、下部、膵胆管内視鏡検査、肝硬度、脂肪沈着を定量化できるフィブrosキャン+超音波検査装置、CT/MRIを備え、大腸がん、炎症性腸疾患、ウイルス肝炎、肝臓、をはじめとする肝臓病、膵臓疾患に対応し多くの患者様をご紹介いただいております。また、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟などの慢性期病棟機能を擁し、急性期後のリハビリから在宅復帰、長期療養まで多様なニーズに対応しています。当院での治療が安定し在宅療養が可能となった患者様に対しては、かかりつけ医や介護施設へのスムーズな移行（逆紹介）を積極的に支援する体制を整えており、医師、看護師、リハビリスタッフ、医療相談員等がチームとなって万全のサポートをさせていただきます。

いそどり歯科・訪問歯科

院長あいさつ

当院は大きな歯科ではありません。その分、患者さんのお悩みやご不安・ご要望などを丁寧にお聞きし、小さいお子様からご高齢の方まで寄り添いながら安心して治療が出来るよう努めてまいります。

また訪問歯科診療にも力を入れております。自力で通院できずお困りの方はご自宅や施設で治療が出来ますので是非お気軽にご相談ください。



いそどり歯科・
訪問歯科
院長

山崎 彩香

診療科・病院案内

歯科・小児歯科・訪問歯科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00~13:00)	●	△	△	●	●	●	△
午後(14:30~18:30)	●	●	●	●	●	●*	△

*土曜日 14:00~17:00

群馬県安中市原市315-4 TEL:027-395-4700

当院は、初診時にカウンセリングをし、ご納得頂いてから治療に進んでいけるように致します。院長は歯科技工士の資格も保持しているため、急いで入れ歯を作りたい・修理したい、急いで詰め物や被せ物を作りたい、見た目の形や色にこだわりたいなど様々なご要望にお答えすることが可能です。一般歯科、小児歯科の他、審美歯科、ホワイトニング、マタニティー歯科にも対応しております。また、出来る限り他の患者さんとの接触を減らせるよう心掛けておりますので、感染症の不安などで大人数の場所に行けない方や、小さなお子様が心配な方も安心してお越しください。

訪問歯科では、自力で通院できずお困りの方のご自宅や施設で治療が出来ます。月~土曜日まで訪問可能ですので、ご家族や施設のご都合に合わせた予約が出来ます。医療保険、介護保険が適応可能です。訪問範囲は当院より半径16km圏内となり、安中市の他に富岡市、高崎市、下仁田町も対応しております。是非お気軽にご相談下さい。

